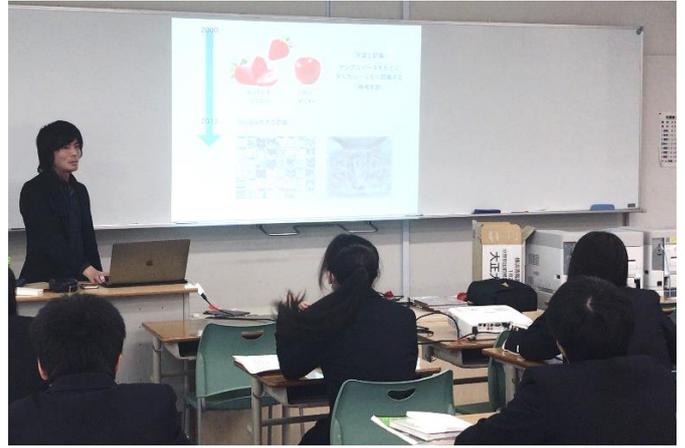
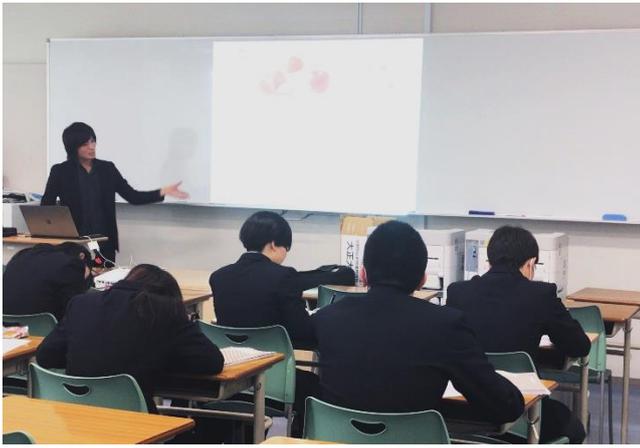


○大正大学 的場真唯先生による講義の様子と生徒の感想



講義名：「人工知能と表現の未来」

☆生徒から講師の先生へのお礼と感想

1年 S.Aさん

大学の講義を50分に短くした授業という高校生では中々体験し得ない、とても良い経験をする事ができました。ありがとうございました。今日の授業を聞き、進路の方向性を改めて考えさせられる程に表現学に興味を惹かれました。

授業は大学の講義とほとんど同じということであり、大学の授業がどんなアプローチの仕方での問いの答えを導き出すのかを内容のことと一緒に考えながら授業を聴きました。

今日の授業は最初に「人工知能の「知能」とは何か」という問いから始まりました。そこから「知能」という言葉を分解することや、「人工知能」からAIに変えて身近なもの結びつけることや、「人工知能」の歴史から考えるとといった、一つの物事、問いに対して様々な視点から考えることが、問いの答えを導き出せるようにすると気づきました。問題を多方面から考えて答えを出したあと、さらにその答えを考察し、その考察から新たな問いを生徒に出し、また考えられるような問いを示す。という、前に聞いた話から自分の意見を織り交ぜて考えることが出来るように導いてくださいました。本日は貴重な授業を拝聴することが出来、本当にありがとうございました。

1年 N.Aさん

このたびは貴重なお時間をありがとうございました。私は普段から人工知能によって生活を支えられています。一方で、人工知能に何でも頼ってしまうことへの漠然とした不安感もありました。

今回の授業で人工知能の歴史や特徴を学ぶことは人工知能の必要性や凄さと欠点を知り、人間の知識の蓄積の工程の一端を学ぶことが出来ました。

また、人工知能を表現学という視点から見ること、私たちがこれからどういう風に人工知能と関わっていくか、人工知能の活動をどこまで許すかなど人工知能に対する考え方を改めるきっかけになりました。

今まで当たり前のように側にある人工知能の共通点は、人間のある行動や知識を機械が覚え、行っている。そのため近い未来、人工知能が人間の仕事の多くを出来るようになり多くの人が職を失うと言われています。すでに、判断や計算（知性の分散、自動化）は機械が行ない、小説や音楽、ウェブの編集は人間が手を加える状況だが、人工知能が創造できるように日々技術が進歩している。しかし、人工知能には人間のように読み手に何かを伝えたいという心はない。今後AIの普及により創作者と鑑賞者との関係や人工知能の表現活動について考えていく必要があるだろうと考えています。

私は「人間が作る作品」を超えるものを人工知能には作ることはできないと思っています。むしろ人工知能の役

割ではないと思いました。人工知能が作った作品がどれだけ、人間には不可能なほど繊細で美しい形であっても、素晴らしい音楽や文章であっても、作品を創案するのは考えることができる人間であって欲しいと望んでいます。創案することも出来てしまったら、人間の存在意義が危ぶまれてしまうのではないのでしょうか。だから、「何かを表現する」という行為はこれからも人間が行なって行くべきだと考えました。

本日は大変興味深い講義を受けることが出来、本当に楽しかったです。ありがとうございました。